

このたび、「一筆」に執筆する機会を頂戴した。まずは簡単な自己紹介から始めさせていただくことにしたい。

私の生まれは京都で、大学進学を機に東京に出た。当初、国家公務員を志望していた私の進路を大きく変えることになったのが、蒲島郁夫先生（現知事）との出会いである。2年次に先生の講義を聞き、政治学という学問の面白さを知ったことで、政治学の研究者の道を目指すことにした。3年次にゼミに入ってから、現在に至るまで約20年にわたり、先生からご指導をいただいている。

大学院修了後、東京大学、

熊本を選んだ理由

首都大学東京、早稲田大学に奉職した。早稲田での主任研究員としての任期の終わりが近づく中、崇城大学と、東京のある有名私立大学（法学部）からお誘いをいただいた。政治学者が100人いたら、おそらく99人は、政治学を教養科目として教える前者ではなく、専門科目として講じる後者を選択するだろう。しかし私は、崇城大学にお世話になることにした。その理由は大きく二つあった。

一つは、20年以上住んだも

の、京都人の私には関東の水がどうしても合わなかったということである。もう一つは、熊本が好きだったということである。蒲島先生の知事就任後、年に2〜3度は熊本を訪れるようになった。その中で、熊本の魅力に大いにはまってしまったのである。こうした経緯で、2017年4月に崇城大学に着任した。次回からは教育、研究、社会活動に日々関わる中で感じていることについて書いていきたい。



崇城大総合教育センター教授

今井 亮佑

2019.1.10